

移住した皆さんに
インタビュー

ようこそ 小野町

平成16年に設立された小野町ふるさと暮らし支援センターは、田舎暮らしを希望している方や小野町に移り住んだ方を様々な面からサポートしている組織です。最近では、当センターの活動が全国的にも注目され、新聞やシンポジウムなどで紹介される機会も増えています。

今回は、設立当初から支援センターの活動に積極的に参加し、現在副理事長を務めている移住者の方にお話を伺いました。

◆いつ小野町へ移住しましたか？

平成9年に東京から移住しました。もうすぐ小野町に住んで12年になります。

◆なぜ移住しようと思いましたか？

田舎で子どもを育てたいという希望がありました。サラリーマンだと子どもに働いている姿を見せることができないので、子どもから遠い存在に思えました。東京で銀行に勤めましたが、将来は自営業に転職しようという気持ちを持っていました。どのように独立するか考えた末、田舎で農業をすることを決意しました。

◆どのように移住先を決めましたか？

自分の理想の暮らしができるのなら、日本全国どこでも良いと考えていました。ちょうど移住を具体的に検討していた時期に、阪神大震災がありました。移住するなら活断層のないところが良いと思い、情報収集したところ、阿武隈山系に活断層がないことを知りました。

◆なぜ小野町に決めましたか？

雑誌で小野町の記事が掲載されているのを見て、小野町を知りました。土地の値段も手ごろで、地震もなく、高速道路が開通すれば交通の便も良くなること、東京からの距離も程良かったことから決めました。

◆小野町の暮らしはいかがですか？

隣組や消防団に入ったことで、スムーズに地元に入りこめたと感じています。地元の方に土地や畑を紹介してもらったりもしました。東京に比べると家同士の垣根がないと感じています。学校も都会にはない良さがあると思っています。地域とのつながりが強く、安心して学校に通わすことができます。



杉岡さんは、「直売所おのいち」の会長も務めていらっしゃいます。週末にはたくさんのお客様が訪れます。

杉岡直人さんご一家（夏井行政区）



◆小野町ふるさと暮らし支援センターで、どのような活動をしたいですか？

移住した人のサポートをしっかりとやりたいと思っています。移住した直後は、地域になじめないなど様々な悩みを抱えることもあると思います。

きちんとサポートする体制が整っていれば安心できると思います。田舎は人脈・ネットワークで動いている部分が多いので、地元の情報を伝える役割を担いたいです。

お忙しい中、インタビューにご協力いただき、ありがとうございました。